

令和4年度（第4回）糸田町地域公共交通会議

開催日時：令和5年3月15日(水) 13:55～15:20

開催場所：住民センター2階 第2,3研修室

会 次 第

■糸田町地域公共交通協議会

	所属	役職	氏名
(1)糸田町長又はその指名するもの	土木課	課長	加治 昭生
(2)一般乗合旅客自動車運送事業者	田川構内自動車(株)	総務部長	長井 智章
	西鉄バス筑豊(株)田川支社	支社長	田口 勝啓
(3)鉄道事業者	平成筑豊鉄道(株)	代表取締役社長	河合 賢一
(4)住民又は利用者代表	糸田町行政区町会	会長	梶田 哲也
	PTA	会長	白銀 将道(欠席)
	老人クラブ連合会	副会長	森 和子
	交通安全協会糸田支部	支部長	廣末 豊子
(5)九州運輸局福岡市局長又はその指名するもの	九州運輸局福岡運輸支局	支局長	久世 和彦 (代理:西脇 考志)
(6)一般旅客自動車運送事業者の組織する団体	福岡県バス協会	事務理事	中川原 達也
	福岡県筑豊地区タクシー協会	会長	嘉久 礼子
	福岡県交通運輸産業労働組合協議会 (西鉄グループバス労働組合)	副執行委員長	熊本 正志(欠席)
(8)学識経験者	福岡県立大学	准教授	寺島 正博
(9)町内の道路管理者又はその指名するもの	福岡県田川県土整備事務所 用地課	管理係長	淵上 大輔(欠席)
(10)福岡県田川警察署の代表者又はその指名するもの	田川警察署 交通課交通総務課係	係長	田中 一実(欠席)
(11)糸田町商工会の代表者又はその指名するもの	糸田町商工会	会長	田代 裕
(12)糸田町社会福祉協議会の代表者又はその指名するもの	社会福祉協議会	会長	石川 謙一
事務局	地域振興課	課長	木村 成伸
	地域振興課	課長補佐	松岡 俊輔
	地域振興課	主事	原 美貴子

1. 開 会

2. 会長挨拶

本日の資料は具体的な資料となっている。前回も話題になったが、本日の会議はPDCAでいうところのP（計画）からD（実行）にうつる大事なものである。今後は時間にも追われてくるであろう。細部まで目を通していただき議論をお願いしたい。

3. 議 事

(1)パブリックコメントの結果について

令和5年2月10日（金）～24日（金）に実施。
結果、0件。

(2)糸田町地域公共交通計画（案）

一部、補助金に関する文言を追記。
全員承認のため、確定。

(3)令和5年度のスケジュールについて

【今後の事業者選定について】

- ・令和4年6月に実施した選定委員で問題はないか。
→ 異議なし。

【無償・有償について】

- ・タイトなスケジュールだが問題はないか。また、ゆくゆくは有償化するのであれば、最初から有償にし、意見を聞く方がよいのではないか。
→ 最初の半年間は周知の意味も込めている。デマンド運行を始めるにあたり、周知が一番大変と思っている。無償期間を利用し、まずは乗ってもらうことが重要なので無償とした、7月から運行に関する事前の周知を行ったうえで、無償期間で周知を図りたい。
スケジュールについては、10月に西鉄バスが廃止することから、10月からの実証運行開始に向けて、このスケジュールで進めていかなければならないと考えている。
- ・無償期間には、無償だから乗ったという人がいることが考えられるので、無償期間中の利用者数が有償化してもそのまま推移するとは限らない。無償期間におい

ても、今後有償化をする予定であることを伝えていくことが重要である。

→ 承知した。

・無償化から有償化よりも最初から運賃の意識をしてもらいやり方があるのではないか。その方が理解されやすいのではないか。

→ 一理あり、途中から有償になることに不満が出ることはあろうかと思う。

ただ、これまでの会議の中で、最初の半年間は無償運行とした経緯がある。

それは、まずは利用してもらいたいという意味がある。一方、有償化への反発はあると思うので、実証運行を始める段階から伝えていく必要があると考えている。

【利用方法について】

・利用の際には毎回名前や住所を伝えなくてはいけないのか。利用者は登録性にしないのか。

→ AI システムの委託先が決定していないので、詳細は未定である。しかし、AI システムが採用できれば登録制とすることも可能なので今後検討していきたい。事前登録制となる場合は説明会においても説明を行う。

【車両・運行について】

・運行車両は公用車のプリウス 1 台ということか。また、予約が多い場合はどのように対応するか。

→ 現時点では、まずは 1 台で始め、実証運行の結果を踏まえて見直しをしたい。糸田町は面積が小さいため、ある程度は 1 台でまかなえるのではと考えている。

・1 台で運行することは承知したが、予備車を確保しておいた方がよいのではないか。

→ 他にも公用車はあるため、利用検討などの準備はしておきたい。

・近年はどこの運行事業者も運転手が不足しているようだ。その場合は、運行台数を増やすことは難しいということにもなるのではないか。

→ 事務局でも事業者と意見交換をしておき人手不足の話は出ている。簡単に増やせることはないことは把握しているので、今後事業者とすり合わせし、対応していきたい。

・稼働する車は 1 台か。将来は何台になるのか。また、町外の乗降ポイントは田川市立病院のみか。

→ まずは 1 台で開始する。なぜかというは無駄をなくすためにミニマムスタートをしたいと考えている。福祉バスも引き続き運行していくので福祉バスを利用する方もいるだろう。実証運行の中で需要を確認し、需要があれば台数を増やすことを検討していきたい。

- ・福祉バスとの競合になると思うのでポイントは整理しておくべき。メリットは家の前まで来てくれるということだろ。
 - 一回の乗車人数は3人になるだろう。デマンド運行のメリットは、家の前まで来てくれること、福祉バスより待ち時間が低減されることと考えている。福祉バスとのすみわけを意識しながら進めていきたい。
- ・第1期の無償運行はあくまで宣伝、周知、使ってもらおうという意味がある。ただし、宣伝ということだとこの期間の調査結果はデータとしては使えないと思う。なお、予約が多く毎回待たされるということになると、逆にマイナスイメージになる可能性がある。この半年間の中で台数の柔軟性についても考えていくべきである。
 - 使って、知ってもらおう段階でマイナスイメージになるのは望ましくない。可能であれば2台での運行が望ましいと考えているが、コストが倍かかること、運行事業者で人員を1人増やしてもらおう必要があるという問題もある。
- ・2台体制にするかしないかは別として、この半年間の中で柔軟に対応できるように検討しておく必要がある。
 - そのような準備も検討していきたい。確かに仰る通りであるが、1台から2台にするには費用も人も負担が増加する。補正予算等で負担する、運行事業者とすり合わせするということも検討していきたい。先を見越したうえで検討していくということで理解した。

【ミーティングポイントについて】

- ・原案なので今後見直しはあるのだろう。また、リストにはカテゴリを入れてほしい。
 - 承知した。
- ・利用者の意見収集の手法はどう考えているか。
 - 広報やアンケートにより行う予定である。
- ・ミーティングポイント以外での条項はできないのか。
 - タクシーと棲み分けをするため、自宅若しくはミーティングポイントでの乗降を基本としている。
- ・他町外のミーティングポイントはないのか。
 - 現時点では田川市立病院のみとしている。今後の検討となるだろう。

【周知方法について】

- ・周知方法に対しての意見はどうか。問題はないか。
 - 異議なし。